

ます。日本ユネスコ国内委員会は、今後選考準備委員会を設置し、浮世絵や漫画など幅広い分野から候補を選定し、2012年春の推薦に向け作業を始めるとしています。日本では、「記憶遺産」の知名度はあまり高くありませんが、欧米では観光客向けのガイドブックにも掲載されているといい、登録による外国人観光客誘致の効果も期待されます。

こうした中、福岡県田川市は今年6日に、市などが所蔵する炭坑記録絵師の山本作兵衛氏が描いた筑豊炭田の記憶画など約700点について、「記憶遺産」への登録申請書類をユネスコ本部に送付したと発表しました。炭坑節発祥の地である同市は、「九州・山口の近代化産業遺産群」の一画として、市内に残る旧三井田川鉱業所の施設の世界遺産登録を目指していましたが、昨年10月の関係自治体がつくる世界遺産登録推進協議会の専門家委員会において遺産群の構成資産から外されることとなりました。その選考の過程において、山本氏の作品が「日本における炭鉱記録の代表作」と高く評価され、今回の「記憶遺産」への登録申請に至るきっかけとなったといいます。同市は、「記憶遺産」への登録により来訪者が増えるなど、地域振興につながると期待しています。

自治体においては、交流人口の増加を目指して様々な分野における観光施策に力を注いでいます。「記憶遺産」登録への取組は史料などの地域資源に光をあてる新しい機会として期待されます。(や)

=====

II 広域連合からのお知らせ

①平成21年度政策課題共同研究報告書発行

当広域連合では、県や市町村が直面している政策課題について、広域連合構成団体(県、市町村)職員等が共同で調査研究を行っています。

平成21年度は、下記2テーマについて研究し、報告書をまとめました。

- ・豊かな地域社会創造のための官民連携
- ・広域行政活用のススメ!

報告書は、県主管課、各市町村研修担当に配布させていただきましたのでご覧ください。業務で利用される場合は無償で、それ以外の場合については1冊500円で提供しております。入手方法につきましては直接お問い合わせいただくか、下記ホームページをご覧ください。報告書全文について、ホームページでもご覧いただけます。

報告書の入手方法については↓

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/hanpu.htm>

平成21年度政策課題共同研究の報告書については↓

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/top.htm>

②政策情報誌「Think-ing」第12号特集テーマ募集

当広域連合では、政策情報誌「Think-ing」を年1回発行しています。

毎回、特集するテーマを設定し、そのテーマに対して有識者や自治体職員に寄稿していただくほか、事例などを紹介しています。現在、第12号の特集テーマとして、自治体が直面する、又は今後予想される課題を幅広くとらえたテーマを募集しています。是非、ご応募ください。

テーマ募集の詳細は↓

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/81sien/01/12/theme/bosyu.htm>

過去の Think-ing については↓

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/81sien/01/top.htm>

=====

Ⅲ 私の選んだこの一冊

『『都市縮小』の時代』(矢作 弘著/角川 one テーマ21)

21世紀は「縮小都市の時代」であるという。世界の人口10万人以上の都市のうち、4分の1以上が人口を減らしている。本書は欧米も日本も都市が縮小しているという現実を直視し、縮小都市の積極的な面を捉え、あるいは時代の要請に適合するように都市の縮小を誘導する必要性を論じている。

本書ではまず縮小都市化の要因を産業の衰退、出生率の低下、居住の郊外化など複合的な事情によるものであると述べ、疫病の流行や地震などの天変地異が引き起こした一過性の縮小化と根本的に異なるとしている。そして、世界の人口の過半が暮らす都市の縮小化は、世界文明に大きな影響を与え、そのあり方を決定するとしている。

こうした状況を踏まえ、筆者は成長を目指す都市経済学による従来型の研究から今後半世紀は続く人口減少により都市が縮小し続けるという現実を直視し、持続可能な状態に都市規模を縮小させるための新しい都市研究への転換が求められるとしている。

こうした都市縮小論においては、縮小の軋轢を調整しながら、経済的、社会的な縮小の負担と、縮小の利益を社会全体にどう分配するのかを考え、どのような「かたち」に縮小を誘導するかが問われるとする。ここでいう「かたち」とは、表面的な都市の姿だけでなく、そこに暮らす人々の働き方、日常の暮らし方を含めた全体像であるとし、本書は縮小都市には「亡びる都市」や「進化都市」など多様な「かたち」があることを示唆している。

縮小都市の現実は厳しい。しかし、成長都市が車産業の発達により都市化が

郊外へ拡散を続けた結果、中心地が空洞化するなど良いこと尽くめではなかったこと、縮小都市も縮小する人口規模に応じて都市機能を縮退させることにより出現した空き地の緑化が進むなど悪い話ばかりではないとしている。そして、これまでの拡大成長信仰を捨て、「賢く衰退する」ことにより復活を遂げた欧米の都市の例などを挙げ、都市縮小にチャンスを見出す「都市規模の創造的縮小」を提言している。

本書により、これまでの拡大路線の意味合いを大きく変え、縮小都市時代に対応するために「賢く衰退する」「より小さく成長する」ことを目指す新たな地域活性化に取り組むことが、私たち自治体職員に必要であると認識させられた。(か)

IV 政策情報ライブラリー新着図書のご案内

4月の新着図書は次の5冊です。

①『新訂 生涯学習概論』

伊藤俊夫/執筆・編集代表

国立教育政策研究所社会教育実践センター/著作権所有 ぎょうせい

②『まちづくり条例の実態と理論-都市計画法制の補完から自治の手だてへー』

内海麻利/著 第一法規出版

③『第三セクターの経営改善と事業整理』

宮脇淳/編著 石井吉春・泉澤俊一・中島弘雅・小林信明/共著 学陽書房

④『地域福祉の今を学ぶ 理論・実践・スキル』

妻鹿ふみ子/編著 ミネルヴァ書房

⑤『働くことと学ぶこと 能力開発と人材活用』

佐藤博樹/編著 ミネルヴァ書房

詳しいご案内、蔵書一覧は↓

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/82network/02/Library.htm>

★☆ご意見・掲載希望★☆

今月号のeシンキングはいかがでしたか？ご意見・ご感想がありましたら下記担当までお寄せください。また、各コーナーでは皆様からの参加レポートなどの情報提供を随時募集しています。「これは記事になるかな？」というものがありましたら、お気軽にご連絡ください。

[eシンキング/毎月15日発行]

発行元

彩の国さいたま人づくり広域連合 政策管理部(村田・松本)

〒331-0804 さいたま市北区土呂町2-24-1

TEL:048-664-6681 FAX:048-664-6667

WebPage: <http://www.hitozukuri.or.jp>

E-Mail: jinzai03@hitozukuri.or.jp

=====